

令和3年6月8日

第365回三木市議会定例会における

所 信 表 明

三木市長 仲田 一彦

1 はじめに

第365回三木市議会定例会に当たり、議員の皆さま、市民の皆さまに、所信の一端を申し述べる機会をいただきましたことを大変光栄に存じます。

このたびの市長選挙におきまして、多くの市民の皆さまからの力強いご支援をいただき、2期目の市政を担わせていただくこととなりました。

コロナ禍の真ただ中にある今、この未曾有の脅威から市民の命と生活を守り、安心を届けることが今の私に課せられた最大の使命であり、2期目となる市長の重責に改めて身の引き締まる思いとともに、決意を新たにしているところでございます。

私はこれまでの4年間、三木市の発展と、市民誰もが「三木市民」であることに「誇りを持って暮らせるまち」を実感していただけるよう、全力投球で真っすぐに走ってまいりました。

市長就任後は、明日を示す羅針盤である「三木市総合計画」を策定し、地域の総意を聞く場である「市政懇談会」の復活をもって、私の市政運営の第一歩としました。

市民の皆さまとともに将来のまちづくりを議論し、地域の抱える課題解決を図りながら、持続可能な三木市の土台となる公共施設や道路や河川など社会インフラの整備を進めると

ともに、風通しの良い市役所をめざし、職員と一丸となって全身全霊で市政運営に当たってまいりました。

中でも、雇用対策の決め手となる「ひょうご情報公園都市次期工区」の事業化や、農家の皆さまに甚大なる被害を及ぼしている鳥獣害対策として「(仮称)兵庫県立総合射撃場」の整備などは、県・市協調を旗印に、私にしか実現できなかったことであると自負しています。

これからの4年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と社会経済活動の再生、活性化を図るとともに、コロナ禍はあらゆることを見直すチャンスと捉え、アフターコロナの三木市が、これまで以上に良いまちとなっていくことを信じ、本日ここに、私の所信の一端を申し述べ、市民の皆さま並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

2 市を取り巻く環境

4月25日以来、緊急事態宣言期間が2度の延長を挟み6月20日まで延長されております。

新規陽性患者は徐々に減少してきているとはいえ、より感染力の強い新たな変異株流行の兆候が見られるなど、まだまだ予断を許さない状況が続いています。

三木市が今、最優先に取り組むべきは、言うまでもなく新型

コロナワクチン接種に全力を挙げることであります。

行政の使命として、市民の生命と健康を「まもる」ことであります。

6月22日からは、集団接種会場を現在の総合保健福祉センターから旧志染中学校へ移し、1日で接種できる人数を2倍以上に増やし、ワクチン接種を加速します。

高齢者へのワクチン接種を7月末までに完了させるとともに、それ以降も引き続いて、希望される全市民の接種が完了するまで、医療関係者の皆さまのご協力を得ながら気を緩めることなく進めてまいります。

また、緊急事態宣言やまん延等防止措置などの影響により、困窮する市民や停滞する市内経済活動に対し、市独自の対策をタイムリーに打ち出し、全力で三木市を守り抜いてまいります。

日本に新型コロナウイルスの初感染が確認されてから1年半もの長期に及ぶコロナとの戦いが続き、社会全体が大きなうねりをもって構造の変化を遂げようとしています。

社会不安を起因とした結婚、出産控えにより少子化は深刻度を増し、密を避ける新しい行動様式の浸透から人や企業の地方回帰の現象が生まれ、デジタル社会の実現に向けた動きが加速するなど、本市を取り巻く環境は目まぐるしい変化を

見せています。

新型コロナウイルス対策に全力を傾注する一方では、これまでから積み上げてきた三木創生への取組についても、「希望」を持って着実に進めていかなければなりません。

都会に近い自然豊かな都市として、無限の可能性を持つまち三木市の未来の発展に向かって、職務に邁進してまいり所存であります。

2 市政運営の基本姿勢

市政運営に当たっての私の基本姿勢、心構えは、2期目となった今も、これまで同様、決して変わるものではございません。

「強い志、高い志、そして何より正しい志」を持って、ブレることなく市政運営を進めてまいります。

第一に、「政治は市民のもの」という強い信念であります。

政治は市民と行政との信頼関係の上に成り立つものであり、行政には透明性が求められ、説明責任を果たす義務がございます。

市長である私は、世情を読み、バランス感覚を持って大局的に、且つ俯瞰して物事を捉え、公平公正に判断する能力が求められています。

市長には権限がある。権力がある。だからこそ、一層謙虚な

気持ちで市政運営に当たっていかなければなりません。

「凡そ事を^な作すには^{すべか}須らく天に^{つか}事うるの心有るを要すべし。人に示すのは念有るを要せず。」

何か物事を成し遂げようとするときは、決して、他人に自慢しようと思うのではなく、天に仕える気持ちで事に臨むことが大切である。

私の座右の銘であります。

第二は、「まちづくりは、ひとづくり」ということでもあります。

市政懇談会や若者ミーティングなどにより市民のまちづくり参画を促し、地域の皆さまと共に地域の課題を話し合い、共有し、一歩ずつ、着実に、安全で住みよいまちの発展に繋げてまいります。

人なくして、また人材なくして、三木市の未来を描くことはできません。

「未来をつくる人材が集うまち」

人材を育て、力を結集し、市民の皆さまとともに三木創生を成し遂げてまいります。

3 市政に取り組む決意

20年、30年先の三木市のあるべき姿を大局的に描き、人

の和の市政により、三木市の未来に必要な地域人材の育成・確保の好循環を生み出してまいります。

子育て世代には手厚い子育て支援と雇用の場の確保を、子ども世代には故郷に対する愛着が持てる教育を、シニア世代には地域の指南役として「頼れるおじいちゃん、おばあちゃん」としての役割を、3世代すべての市民が活躍し、安心安全に暮らし続けることができる「持続可能な三木の未来づくりプロジェクト」を進め、未来をつくる人材が集う三木のまちづくりを構築してまいります。

このたびの選挙で私は、公約として「三木をまもる」と申し上げました。

まさしく世代を超えて人材が循環するまち、「未来へ続く好循環」を生み出す仕掛けが、今後の三木市の発展には欠かすことができない重要な要素であると思っております。

数十年かけて成果が表れるこの壮大な目標に対し、これからの4年間でまずは取り組むべき「三木をまもる」具体的な決意を5点申し上げます。

(1) 子どもたちをまもる

まず1つ目の決意は「子どもたちをまもる」ことであります。

三木市独自の特色ある教育を構築、展開し、豊かな人間力と

誇りを持つ子どもたちを育て、「子ども、子育て世代が住みたくなるまち」の好循環を生み出します。

変化の激しい時代を生きる子どもたちにとっては、やはり幼少期からの一定の集団教育が必要であるということを教育委員会と合意し、学校再編に取り組んでまいりました。

次なる高みへ向け、義務教育期間9年間を通じて教科ごとに効果的な学習計画が立てられるよう、小中一貫校体制への移行を進めてまいります。

併せて、金物、農業、自然、防災、ゴルフなど豊かな地域資源や特性を生かし、地域に応じた三木市独自の体験重視型で郷土愛を育む教育を推奨してまいります。

子育て支援の分野では、高校生までの医療費無償化を実現します。

また、子どもの貧困対策にも積極的に取り組みます。

地域の協力を得るなかで子ども食堂を全市的に広げるとともに、地域人材を活用した体験学習や教育支援により、地域の子どもは地域が育てる「三木モデル」の環境整備を行います。

三木で育った若者たちが、進学や就職、結婚などで一旦三木市を離れたとしても、出産を機に、あるいは小学校への入学を機会として、再び生まれ育った三木市に戻ってくる。

我が子の教育は三木で受けさせたいと思ってもらえるよう、「教育のまち三木」として、教育を通じて世代の好循環を生み出し、子どもや子育て世代が集う活力あるまちの未来を守ってまいります。

(2) 市民の安心安全をまもる

2つ目の決意は「市民の安心安全をまもる」ことでもあります。

自治会と協力し、地域の危険箇所の把握に努め、防犯カメラや防犯灯の充実による犯罪のないまちづくりを進めます。

また、危険空き家や悪臭問題などの解消を図り、市民の皆さまの快適で安全安心な生活環境を守ってまいります。

三木市はこれまでから災害の少ない住みやすいまちとして内外から高い評価を受けておりますが、南海トラフや山崎断層を起因とする大地震がいつ起こるとも限りません。

その備えとして、起こりうる最悪の事態を想定し、あらゆる自然災害からの被害を最小限度に食い止めることができるよう、本年3月に国土強靱化地域計画を策定いたしました。

計画に則り、道路、河川、急傾斜地や密集市街地の解消など社会基盤の整備、強靱化を着実に進め、市民の安心安全な暮らしを守ってまいります。

この国土強靱化を縁の下で支えているのは伝統ある三木の

金物産業であり、確かな技術を伝承してきた金物職人であり
ます。

「防災のまち三木」として、足元の地盤をしっかりと固め、
災害に強い強靱なまちづくりを進めるとともに、防災公園所
在市としての強みを生かし、また、防災教育に優れた知見をも
つ地元関西国際大学と連携し、災害支援にも先頭に立って社
会貢献ができる三木の誇りを、今後も繋ぎ守ってまいります。

(3) 地域の活力をまもる

3つ目の決意は「地域の活力をまもる」ことであります。

三木で働き、定住してもらう。

雇用創出の決め手となるひょうご情報公園都市次期工区、
100ヘクタールの開発が動き出しました。

「情報公園都市」の名にふさわしい5G通信網が実装され
た次世代型産業団地を県・市共同により整備し、地域企業、地
元経済の活性化に繋がる企業誘致をめざし、若者が魅力を感じ
る雇用創出を生み出してまいります。

三木の永続的発展に欠かすことができない神戸電鉄粟生線
については、私自らが県や関係市町の先頭に立って存続の協
議を前進させるとともに、三木駅再生をきっかけとして、三木
市中心部の更なるにぎわいを創出し、駅前の発展へと導いて

まいります。

農村地域の公共交通には、4月から導入したデマンド型交通をより効率化し、無駄のないシステムチックな運行形態へと発展させ、地域の隅々まで行き届いた「便利な足」として定着を図ってまいります。

特産山田錦の生産にスマート農業の技術導入、ブドウやイチゴなどの6次産業化への支援をおこなうとともに、有害鳥獣対策を進め、活力ある農村の基盤づくりを進めます。

学校再編により廃校となった小・中学校は、地域の活性化拠点としての利活用を、地域とともに築いてまいります。

また、ボランティア活動への支援制度を充実し、自治会や市民活動、地域活動の活性化を支援するとともに、市内約2千人の外国人住民との共生を促し、市民の誰もが活躍できる地域の活力を守ってまいります。

(4) まちのブランド力をまもる

4つ目の決意は「まちのブランド力をまもる」ことであります。

三木市のブランドは、言うまでもなく「三木金物」、「酒米山田錦」、「ゴルフ」の3大地域資源であり、本年はこの地域資源のフル活用を施政方針でも述べております。

三木金物については、「みきかなもんプロジェクト」をはじめとする三木金物ブランド戦略により、市場の大きな海外へ目を向けるとともに、コロナ禍でも伸び続けるネット通販などEC業界への参入による国内外への新たな展開を後押しするなど、販売力の強化を支援してまいります。

山田錦については、「酒米の王者山田錦の生産量日本一」を誇りとし、最大の特A地区を有する三木市の山田錦ブランド力の強化を図ってまいります。

地域活性化拠点として山田錦の郷活性化構想を推進するとともに、二十歳の酒プロジェクトや三木市産山田錦を使った日本酒の海外コンクール出品など、山田錦ブランドのPR活動を積極的に支援してまいります。

ゴルフについては、ひょうご観光本部と連携し、県や近隣市町と協力したゴルフツーリズムを本格的に展開します。

加えて、ジュニアゴルファーの育成による底辺の拡大とともに、生涯スポーツとして市内外の多くの人々にゴルフに親んでもらい、「ゴルフのまち三木」のブランド力でゴルフ客の増加を図り、ゴルフ産業だけではなく、関連産業やサービス産業への波及、発展、相乗効果を生み出してまいります。

2025年大阪・関西万博へ向け、近畿経済産業局選定の「地域ブランドエコシステム」を活用し、金物、山田錦、ゴル

フという三木市の豊富な地域資源を一体的に情報発信するとともに、まちのブランドを守り、育て、発展へと導き、次世代へとしっかりと繋いでまいります。

また、青山7丁目を世代が循環するモデルタウンとして、公民連携により開発を進めています。

特別養護老人ホームを併設したデイサービスセンターを民間誘致し、多世代が交流できる拠点エリアに市のサービス・ステーションを置くなど、高齢世帯だけではなく、新婚世帯や独身者にも便利なまちづくりを進め、高齢化した住宅団地を「住み継がれていくまち」として域内循環を促し、まちのブランド力を守ってまいります。

(5) 三木の未来をまもる

5つ目の決意は「三木の未来をまもる」ことであります。

持続可能な市政運営を再構築するため、新設した経営管理課のもと、財政健全化計画を策定し、将来世代へ負担を残さない「選択と集中」により、5年間で赤字補填のための財政基金の取り崩しをゼロにし、健全財政を築いてまいります。

また、人口減少社会に見合った公共施設再配置計画の具体化を推進するとともに、並行して新たなデジタル技術を積極的に活用し、行政のスマート化と更なる市民サービスの向上

の両立を図ってまいります。

その他、SDGsの精神や、脱炭素社会の実現など、社会貢献活動に積極的に取り組む企業とタイアップを図り、ウィン・ウィンの関係を構築し、行政単独では実現困難なまちづくりを一致協力して積極的に展開し、持続可能な三木の未来を守ってまいります。

5 むすびに

本日は、私が市政の舵取り役を担わせていただくに当たり、基本的な考え方や、早急に対応すべき課題についての対応策、そして「三木をまもる」ための取組の一端について述べさせていただきます。

これらの事業を実現させるためには、言うまでもなく、まずは市民のために働く市役所として、職員一人一人が市民を思い、寄り添い、身近な存在として事業に取り組んでいかなければなりません。

そして、議員各位をはじめ、市民の皆さまや企業、団体と行政とが力を合わせ、市全体が一丸となって「誇りをもって暮らせるまち三木」の将来像を描き、それに向かって進んでいく。

この素晴らしい三木の未来を、「チーム三木」の精神でしっかりと次世代に繋いでいこうではありませんか。

ふるさと三木発展のため、これからも全力投球で、自分らしく積極果敢にチャレンジしてまいりたいと存じますので、市民の皆さま並びに議員各位に対しましては、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、私の所信といたします。

ご清聴、ありがとうございました。